３．回答結果と分析

（1）まとめと分析

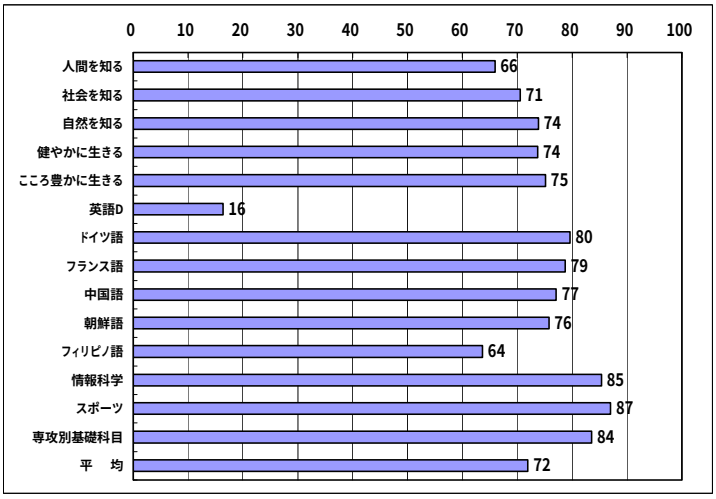
以下では，（2）以下に示される平成１５年度前学期の集計結果を，設問ごと５段階評価において，肯定的評価を下した学生の割合を示し，科目別の傾向を分析します。

1）「学生に関する質問」に対する学生の自己評価

まず「出席状況」であるが、分野毎に60%から80%の学生が、肯定的評価を行っている。再履修科目である「英語D」が極端に低いのは予測の範囲内である。しかし前年度前期と比較して、「英語D」、「フランス語」、「朝鮮語」などの語学科目が評価を落としており、実情の点検が必要となる。

表1　設問①「出席状況」に対する学生の自己評価
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

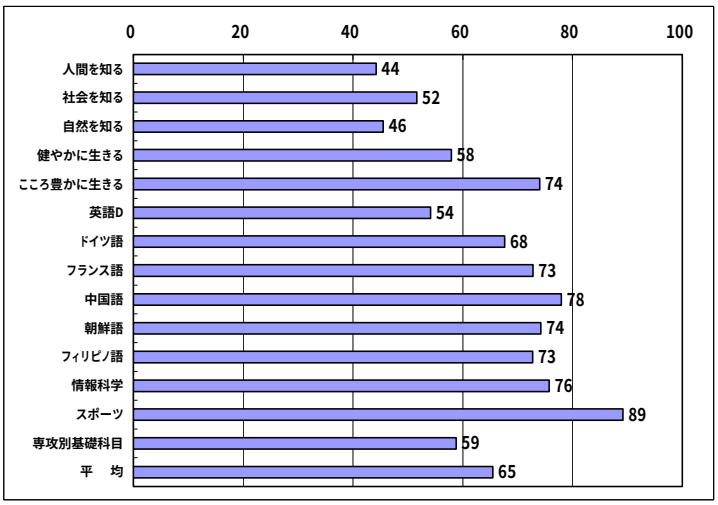
	平成 14 前	14 後	15年 前
人間を知る	65	58	66
社会を知る	70	63	71
自然を知る	74	67	74
健やかに生きる	75	68	74
こころ豊かに生きる	68	61	75
英語D	28	21	16
ドイツ語	75	65	80
フランス語	87	83	79
中国語	79	64	77
朝鮮語	87	40	76
フィリピノ語	67	63	64
情報科学	85	85	85
スポーツ	87	82	87
専攻別基礎科目	81	80	84
平均	73	64	72



次に「意欲・取り組み」であるが、肯定的評価を行っている学生が70%以上を占めている分野としては、「こころ豊かに生きる」、「フランス語」「中国語」、「朝鮮語」、「フィリピン語」、「情報科学」、「スポーツ」であり、前年度同期と比較して２科目増えたことが特筆される。しかし、「人間を知る」と「自然を知る」は意欲的に取り組んだと評価する学生が半分に満たないことは課題である。

表2　設問②「意欲・取り組み」に対する学生の自己評価
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成 14 前	14 後	15年 前
人間を知る	49	43	44
社会を知る	53	52	52
自然を知る	52	51	46
健やかに生きる	67	73	58
こころ豊かに生きる	67	65	74
英語D	41	59	54
ドイツ語	69	62	68
フランス語	78	76	73
中国語	75	64	78
朝鮮語	85	54	74
フィリピノ語	56	75	73
情報科学	77	80	76
スポーツ	91	91	89
専攻別基礎科目	56	59	59
平均	65	65	65

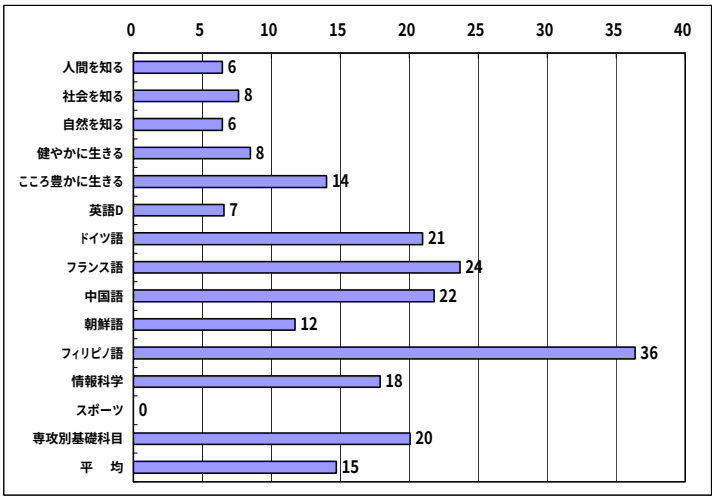


「予習・復習」については、１割強の学生しか肯定的な評価をしていない。これは現行の単位制度下が、予習・復習を前提に授業時間数が計算されていることからして大きな問題である。科目の特性に応じた違いはあるにしても、「外国語科目」、「情報科学」、「専攻別基礎科目」で20%程度、その他の科目では1桁台に止まることが過去３半期継続されていることを問題視すべきである。「自ら学ぶ」学生を育てるための工夫は、授業のデザイン方法とともにシステム開発部の課題としたい。この点、「フィリピノ語」が36%の肯定的評価が出ていることは特筆に値し、かつ「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「情報科学」は着実に肯定的評価を伸ばしていることから、担当教員の努力に敬意を表したい。

表3　設問③　予習･復習

(全回答数に対するA，B評価の割合 (%))

	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	4	5	6
社会を知る	7	5	8
自然を知る	6	8	6
健やかに生きる	6	9	8
こころ豊かに生きる	9	7	14
英語D	10	19	7
ドイツ語	16	18	21
フランス語	19	23	24
中国語	14	18	22
朝鮮語	17	1	12
フィリピノ語	22	50	36
情報科学	10	19	18
スポーツ			
専攻別基礎科目	16	23	20
平均	12	15	15

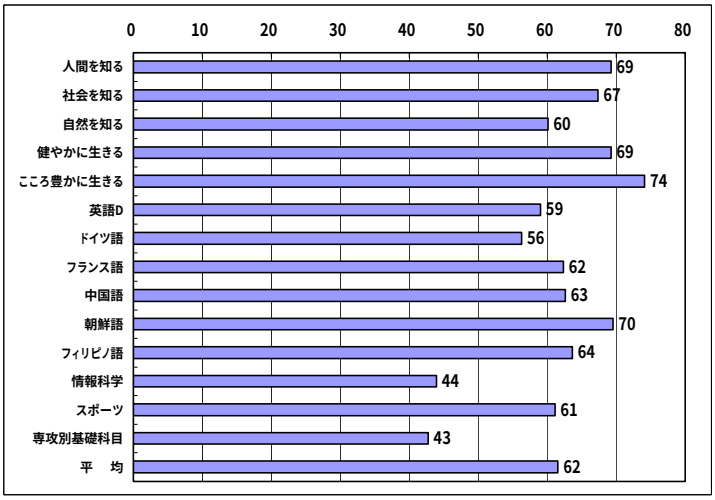


「シラバスの利用」については、必修科目よりも、選択の余地がある主題別科目や第二外国語において、高い数字となった。授業は、教員の教授行為と、学生の学習行為によって構成される。「学生自身に関する質問」の肯定的評価をいかに高めていくかが重要な課題である。

表4　設問④　シラバスの利用

(全回答数に対するA，B評価の割合 (%))

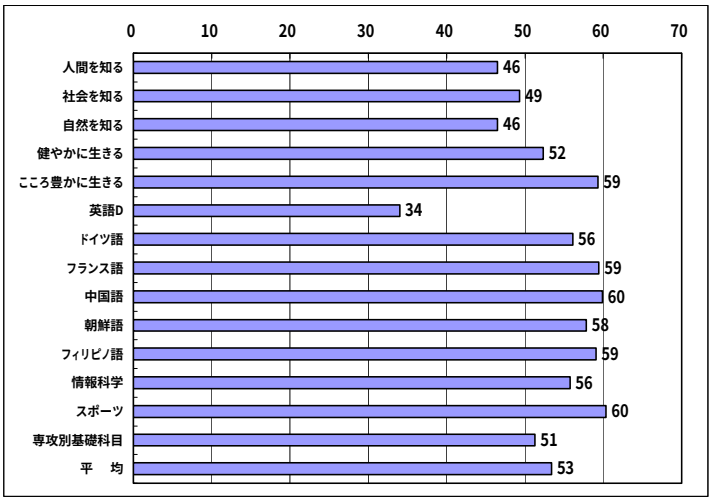
	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	70	72	69
社会を知る	68	67	67
自然を知る	60	64	60
健やかに生きる	65	79	69
こころ豊かに生きる	74	74	74
英語D	60	67	59
ドイツ語	60	59	56
フランス語	59	62	62
中国語	53	47	63
朝鮮語	74	57	70
フィリピノ語	78	63	64
情報科学	41	50	44
スポーツ	53	58	61
専攻別基礎科目	43	47	43
平均	61	62	62



「学生自身に関する質問」に対する学生の評価
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	47	44	46
社会を知る	49	47	49
自然を知る	48	47	46
健やかに生きる	53	57	52
こころ豊かに生きる	54	52	59
英語D	34	41	34
ドイツ語	55	51	56
フランス語	61	61	59
中国語	55	48	60
朝鮮語	66	38	58
フィリピノ語	56	63	59
情報科学	53	58	56
スポーツ	61	59	60
専攻別基礎科目	49	52	51
平均	53	51	53

設問①～④までの平均値

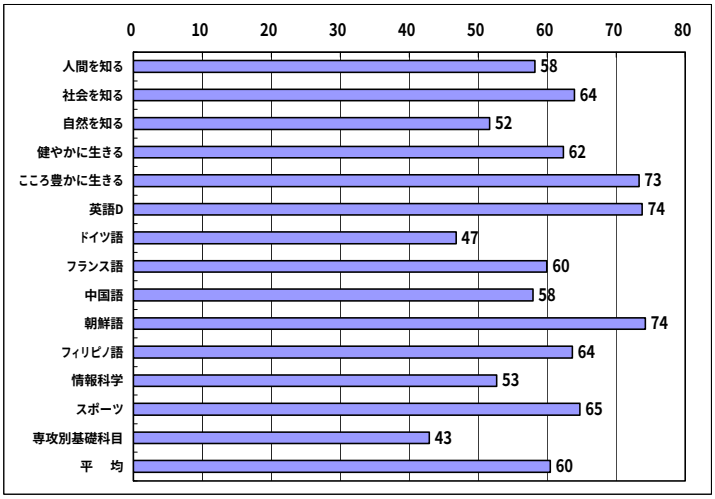


２）「授業の内容に関する質問」に対する学生の自己評価

まず「シラバスどおりの授業」についてである。過去3期とも平均して6割近い学生が肯定的評価をしている。シラバスは学生との授業に関する契約であり、学生はシラバスをよりどころとして授業選択を行い、授業もできるかぎりシラバスに沿うことが求められる。多様な学生ニーズにあわせて、申請したシラバスの一部の授業内容を変更することは必要である。しかし変更する際は、学生に対して授業内容の変更の理由を説明し、新しいシラバスを再提示することが必要となる。授業を受ける学生の立場を配慮し、「説明を受けた上での同意」を得ることが、教員と学生の双方の評価をさらに高める上で必要となろう。

表5　設問⑤　シラバスどおりの授業
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	55	62	58
社会を知る	64	56	64
自然を知る	53	49	52
健やかに生きる	62	70	62
こころ豊かに生きる	63	68	73
英語D	58	72	74
ドイツ語	50	56	47
フランス語	61	65	60
中国語	51	51	58
朝鮮語	77	47	74
フィリピノ語	67	63	64
情報科学	46	53	53
スポーツ	56	64	65
専攻別基礎科目	43	46	43
平均	58	59	60

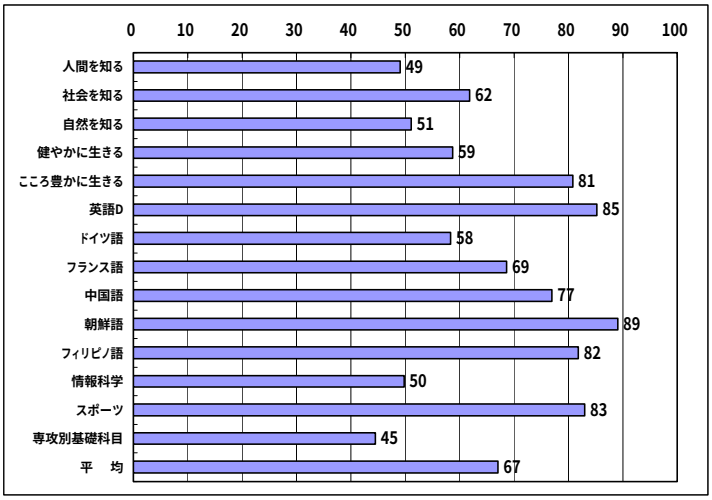


「わかりやすさ」については、前年度前期に比べて大きく評価を伸ばす科目として「こころ豊かに」、「英語D」、「フィリピノ語」の３科目があげられ、各担当教員の努力に敬意を表したい。逆に大きく低下した科目（「健やかに生きる」、「フランス語」）については、その原因を点検し、改善方略を検討する必要がある。また、前年同期に続いて連続して50%を下回る評価であった「人間を知る」と「専攻別基礎科目」については、科目特性や多様化する学生特性による差が出ることが要因と予想されるが、学生の現状の知識を再度調査した上で難易度の設定を調整する必要があろう。

表6　設問⑥　わかりやすさ

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成14 前	平成14 後	15年 前
人間を知る	48	56	49
社会を知る	62	64	62
自然を知る	54	57	51
健やかに生きる	75	79	59
こころ豊かに生きる	71	76	81
英語D	57	82	85
ドイツ語	58	62	58
フランス語	76	78	69
中国語	74	71	77
朝鮮語	91	63	89
フィリピノ語	67	75	82
情報科学	53	60	50
スポーツ	82	87	83
専攻別基礎科目	47	51	45
平均	65	69	67

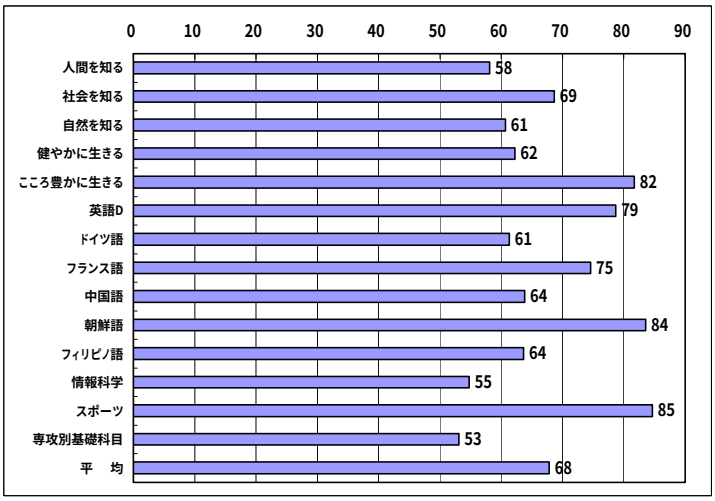


進度・時間配分については、肯定的評価が過去３半期とも70%弱で推移しており、おおむね良好である。その中でも、「こころ豊かに生きる」、「英語D」、「フランス語」、「朝鮮語」「スポーツ」の評価が一段と高いが、これは設問⑥の「わかりやすさ」と同じ結果である。このため、進度・時間配分の適切な設定をすることは、授業の理解度を高めることに結びつくであろう。

表7　設問⑦　進度・時間配分

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成14 前	平成14 後	15年 前
人間を知る	60	69	58
社会を知る	70	66	69
自然を知る	61	62	61
健やかに生きる	74	77	62
こころ豊かに生きる	73	74	82
英語D	60	74	79
ドイツ語	65	65	61
フランス語	74	77	75
中国語	72	70	64
朝鮮語	85	60	84
フィリピノ語	67	75	64
情報科学	58	65	55
スポーツ	80	86	85
専攻別基礎科目	55	56	53
平均	68	70	68

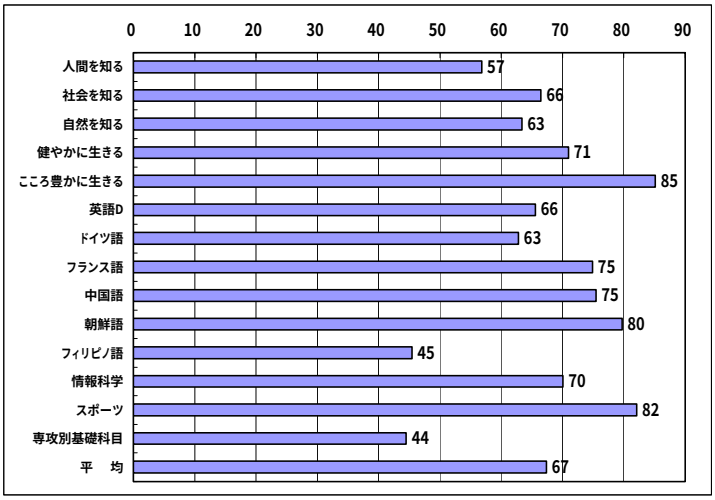


「関心・興味」は、現在の学生の受講ニーズを見るための指標であるが、前年度同期と同様に「スポーツ」「健やかに生きる」「こころ豊かに生きる」「朝鮮語」が高い数値となった。また、「英語D」と「フィリピノ語」が前年同期と比較して大きく向上しており、特筆される。一方、「専攻別基礎科目」の評価が50%を下回る結果が３期続いており、科目特性だけでは説明できない状況であり、抜本的な改善策を検討すべき課題である。

表8　設問⑧　関心･興味

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成14 前	平成14 後	15年 前
人間を知る	62	58	57
社会を知る	67	63	66
自然を知る	68	65	63
健やかに生きる	77	83	71
こころ豊かに生きる	78	81	85
英語D	55	77	66
ドイツ語	60	60	63
フランス語	77	77	75
中国語	72	71	75
朝鮮語	89	68	80
フィリピノ語	33	75	45
情報科学	71	76	70
スポーツ	81	86	82
専攻別基礎科目	44	45	44
平均	67	70	67

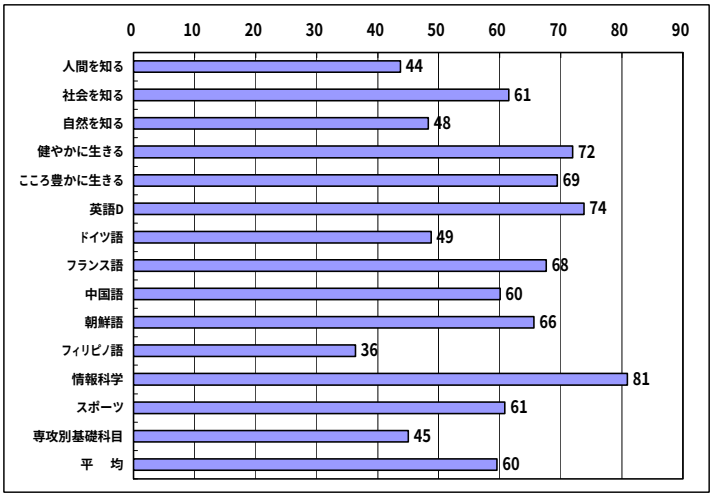


「有用性」は学習動機を高める大きな要素の一つであり、学生の授業アンケートにおいても、多くが授業に求めるニーズである。過去3半期とも約60%の学生が肯定的評価を行っているが、向上の余地は大きい。特に「人間を知る」と「専攻別基礎科目」は、肯定的評価が50%を下回っていることは大きな課題である。特に「専攻別基礎科目」については関心・興味と有用性がともに低い評価であることから、その原因を点検し、改善施策を検討する必要があろう。一方、「情報科学」、「健やかに生きる」は前年度同期比で高い数値を維持したのに加え、「英語D」が大きく向上していることは特筆される。

表9　設問⑨　有用性

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

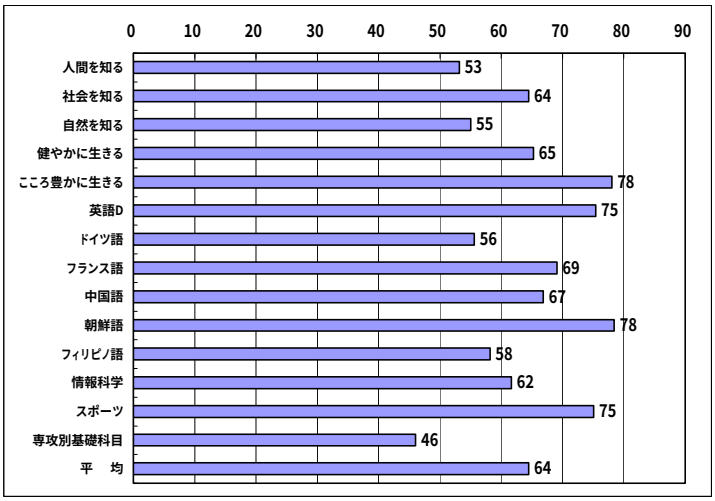
	平成14 前	平成14 後	15年 前
人間を知る	45	40	44
社会を知る	65	65	61
自然を知る	56	53	48
健やかに生きる	71	81	72
こころ豊かに生きる	61	56	69
英語D	47	64	74
ドイツ語	46	51	49
フランス語	64	69	68
中国語	62	65	60
朝鮮語	77	54	66
フィリピノ語	44	75	36
情報科学	81	87	81
スポーツ	59	67	61
専攻別基礎科目	45	52	45
平均	59	63	60



「授業の内容に関する質問」に対する学生の評価
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	54	57	53
社会を知る	66	63	64
自然を知る	58	57	55
健やかに生きる	72	78	65
こころ豊かに生きる	69	71	78
英語D	55	74	75
ドイツ語	56	59	56
フランス語	70	73	69
中国語	66	66	67
朝鮮語	84	59	78
フィリピノ語	56	73	58
情報科学	62	68	62
スポーツ	72	78	75
専攻別基礎科目	47	50	46
平均	63	66	64

設問⑤～⑨までの平均値



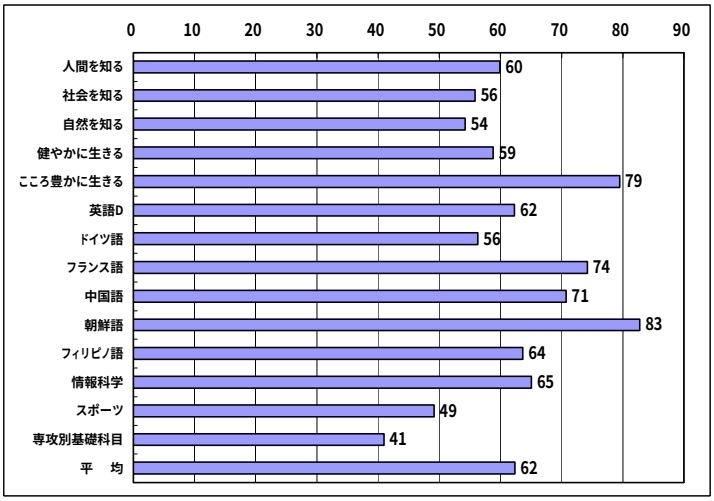
授業内容の肯定的評価が70%を超える科目として、「こころ豊かに生きる」、「英語D」、「朝鮮語」であった。特に「こころ豊かに生きる」と「英語D」は評価が大きく伸張していることから、どのような工夫や努力が行われたのか、調査し、他科目に水平展開させていきたい。一方、「すこやかに生きる」の下落と「専攻別基礎科目」が50%未満であることについても、分析を行う必要がある。

３）「授業担当者の授業方法に関する質問」に関する学生の評価

「教育手段の効果的活用」に関しては、62%の学生が肯定的と評価となった。この数値をどう解釈するかは意見の分かれるところであろうが、教員側からの意見でも特に板書について、大学では学生が授業を自らまとめる力を身につけるべきであり、板書に頼りすぎる学生が多いのはむしろ問題であるとの見方がある。しかし１，２回生段階ではまだ高校までの学習スタイルから脱却できていないことから、板書に限らず、教育手段を活用しつつ、各授業において学生が自らまとめることの大切さを指導する必要がある。

表10 設問⑩ 教育手段
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	62	60	60
社会を知る	61	55	56
自然を知る	61	63	54
健やかに生きる	67	74	59
こころ豊かに生きる	71	80	79
英語D	47	77	62
ドイツ語	59	59	56
フランス語	76	78	74
中国語	71	67	71
朝鮮語	85	50	83
フィリピノ語	78	63	64
情報科学	61	71	65
スポーツ	49	55	49
専攻別基礎科目	43	44	41
平均	64	64	62

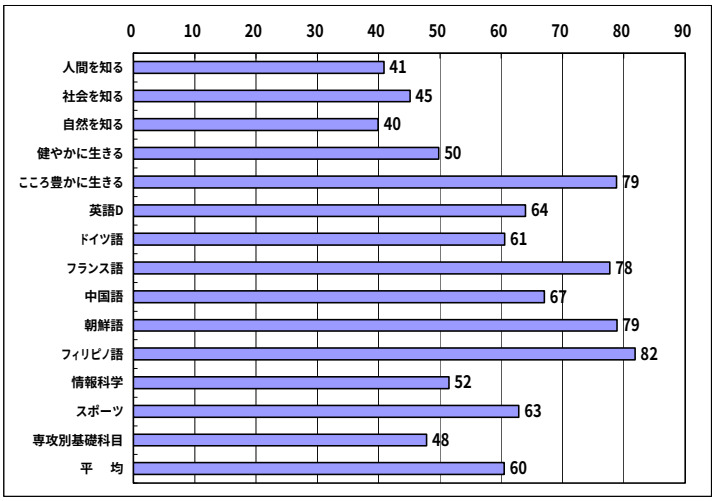


「コミュニケーション」は、授業の成否と直結する重要な項目である。語学系科目が総じて平均の60%を超える肯定的評価を得ているが、「こころ豊かに生きる」が80%近い肯定的評価を得ていることが特筆される。反面、肯定的評価が50%を下回るものが４科目あり、そのうち３科目は３半期連続となっていることから、授業の展開手法に課題を抱えていると推測される。

表11　設問⑪　コミュニケーション

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成14 前	後	15年 前
人間を知る	40	50	41
社会を知る	43	49	45
自然を知る	41	41	40
健やかに生きる	53	69	50
こころ豊かに生きる	68	60	79
英語D	48	74	64
ドイツ語	66	63	61
フランス語	71	82	78
中国語	74	68	67
朝鮮語	79	43	79
フィリピノ語	89	75	82
情報科学	58	61	52
スポーツ	62	71	63
専攻別基礎科目	44	44	48
平均	60	61	60

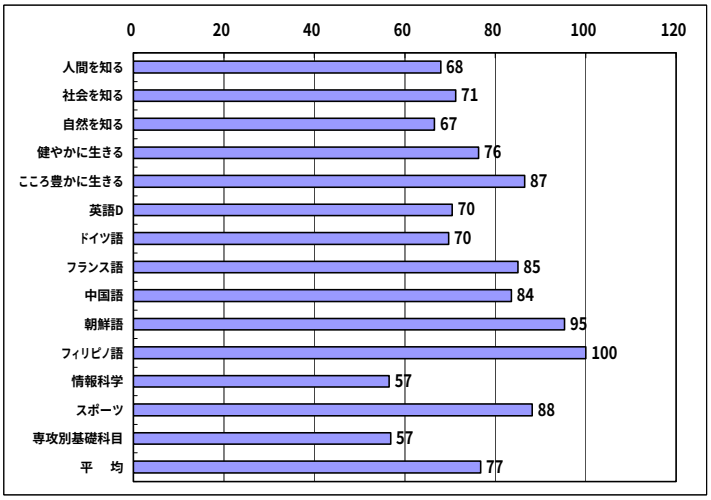


「教員の意欲・熱意」については、肯定的評価は前年度同期と同じく77%に達している。教員からの「意欲・熱意」は学生にしっかりと伝わっていることを裏付ける結果となった。しかし、専攻別基礎科目や情報科学など、科目によっては肯定的評価が低いものもあるため、その要因を分析することが必要であろう。

表12　設問⑫　教員の意欲・熱意

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成14 前	後	15年 前
人間を知る	73	68	68
社会を知る	73	72	71
自然を知る	65	64	67
健やかに生きる	82	87	76
こころ豊かに生きる	85	84	87
英語D	54	87	70
ドイツ語	72	71	70
フランス語	88	86	85
中国語	87	83	84
朝鮮語	94	59	95
フィリピノ語	89	88	100
情報科学	64	66	57
スポーツ	90	89	88
専攻別基礎科目	58	61	57
平均	77	76	77



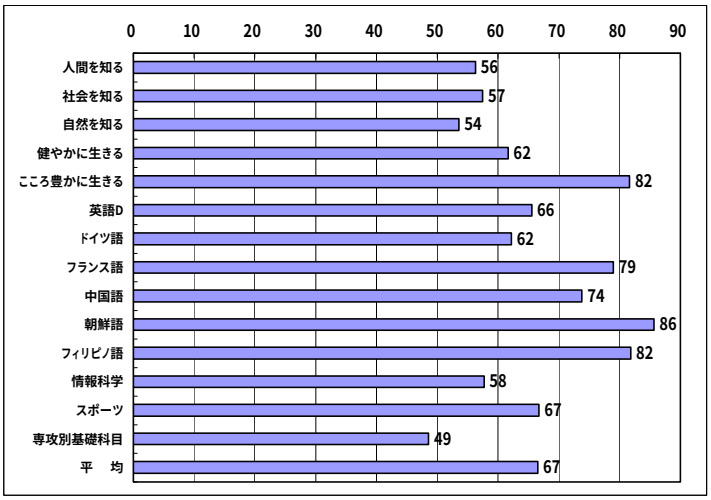
「授業担当者の授業方法」において、肯定的評価が50%を下回ったのは、「専攻別基礎科目」のみであり、３期に渡って低い数値が続いている。この担当部会において、授業内容の検討がなされているが、授業方法についても検討される必要があろう。また、前年度同期と比べ、「こころ豊かに生きる」の肯定的評価が高く伸び、授業方法が工夫された結果とうかがえる。「人間を知る」、「社会を知る」、「自然を知る」は50%台の評価で推移するが、これは講義題目が多岐にわたり、受講生数もまちまちであることに起因する様々な問題を内包している。授業パターンに応じた授業方法のモデルを開発するなど、よりよい授業方法を共有できる環境づくりが急務である。

「授業担当者の授業方法に関する質問」に対する学生の評価

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	58	59	56
社会を知る	59	59	57
自然を知る	56	56	54
健やかに生きる	67	77	62
こころ豊かに生きる	74	75	82
英語D	49	79	66
ドイツ語	66	64	62
フランス語	78	82	79
中国語	77	73	74
朝鮮語	86	50	86
フィリピノ語	85	75	82
情報科学	61	66	58
スポーツ	67	72	67
専攻別基礎科目	49	50	49
平均	67	67	67

設問⑩～⑫までの平均値



４）「授業全体に対する質問」に関する学生の評価

「中間アンケート以後の授業改善度」については、肯定的評価が平均値で27%であり、３期連続で30%を下回った。これは、ほとんどの学生が、教員は中間アンケートの結果をあまり反映させていないと判断したと解釈できよう。中間アンケートの結果に沿って、学生のすべての要求を満たすことはできないが、教員が地道な改善努力を行っていることを認知させることは、学生とのコミュニケーションを図りながらより良い授業に取り組む姿勢を表すことであり、教員の責務として取り組むべき課題であろう。

「改善度」の数値にもかかわらず、「満足度」については66%の肯定的評価であった。しかし３期連続して50%台以下の科目（人間を知る、自然を知る、専攻別基礎科目）については、なぜ授業が満足されず評価が低いのか、その要因を分析し、改善方向を探る必要がある。併せて、３期連続で評価を向上させている「こころ豊かに生きる」の取り組みに焦点を当て、満足度が伸びている要因を調査することで、教育改善への方策が見えてくる可能性があろう。このことは次の「おすすめ度」にも当然連動しており、相似したグラフ分布になっている。教養のありかたを論じる場合に、いたずらに学生の反応に振り回されてはいけないが、授業は受け手に受容されない限り、効果を期待することはできない。満足度やおすすめ度があまり高くない科目については、教育プログラムの面からも問題がないか、重い検討課題として受け止めなければならないだろう。

表13 設問⑬ 改善度

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	22	22	23
社会を知る	24	21	23
自然を知る	21	21	19
健やかに生きる	32	35	27
こころ豊かに生きる	28	31	40
英語D	22	14	10
ドイツ語	25	32	31
フランス語	26	24	28
中国語	22	24	32
朝鮮語	40	31	29
フィリピノ語	56	50	36
情報科学	23	24	23
スポーツ	37	36	30
専攻別基礎科目	22	21	20
平均	28	28	27

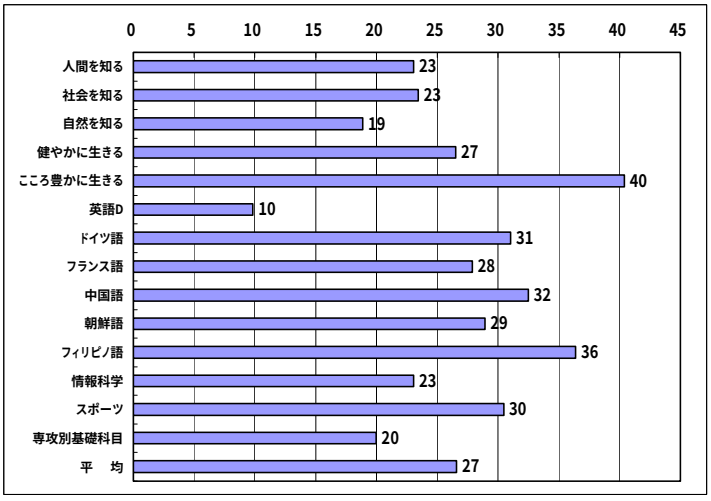


表14　設問⑭　満足度

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	54	55	51
社会を知る	63	57	60
自然を知る	55	57	53
健やかに生きる	75	81	64
こころ豊かに生きる	71	78	82
英語D	55	81	70
ドイツ語	64	64	59
フランス語	78	74	78
中国語	74	70	76
朝鮮語	92	66	83
フィリピノ語	56	75	55
情報科学	65	68	59
スポーツ	86	86	87
専攻別基礎科目	50	50	45
平均	67	69	66

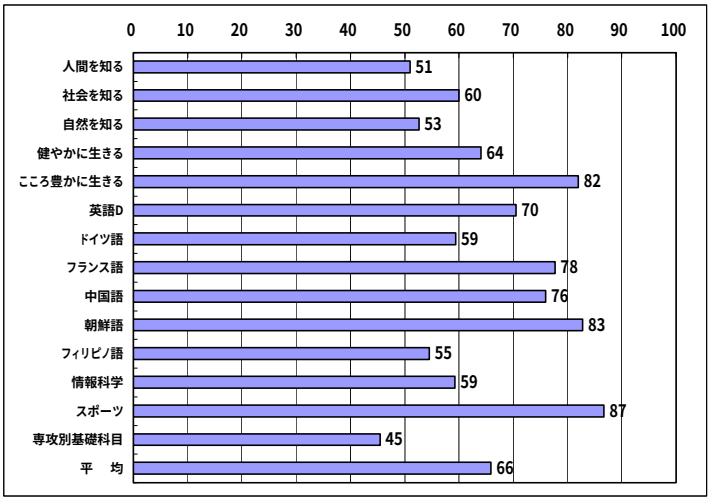
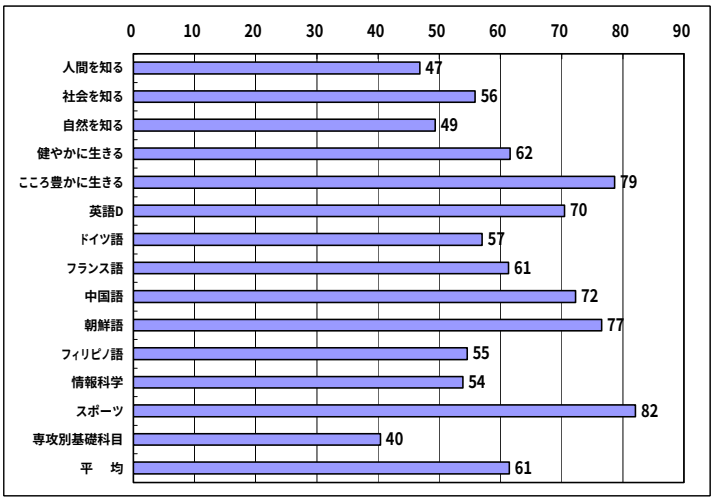


表15　設問⑮　おすすめ度

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

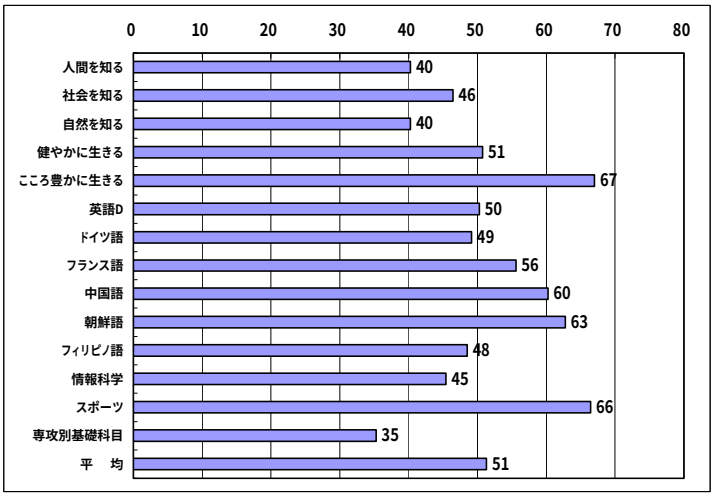
	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	47	51	47
社会を知る	57	52	56
自然を知る	51	54	49
健やかに生きる	72	78	62
こころ豊かに生きる	67	75	79
英語D	55	69	70
ドイツ語	59	61	57
フランス語	67	66	61
中国語	70	67	72
朝鮮語	85	68	77
フィリピノ語	56	88	55
情報科学	60	63	54
スポーツ	85	84	82
専攻別基礎科目	42	44	40
平均	62	66	61



「授業全体に関する質問」に対する学生の評価

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成 14 前	後	15年 前
人間を知る	41	43	40
社会を知る	48	44	46
自然を知る	43	44	40
健やかに生きる	59	64	51
こころ豊かに生きる	55	62	67
英語D	44	55	50
ドイツ語	49	52	49
フランス語	57	55	56
中国語	55	54	60
朝鮮語	72	55	63
フィリピノ語	56	71	48
情報科学	49	52	45
スポーツ	69	69	66
専攻別基礎科目	38	38	35
平均	53	54	51



設問⑬～⑮までの平均値